

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—選ぶ力—

NO. 62



最近…、とは言っても、もう一年以上になりますが、テイクアウトでメニューを選ぶことが少し増えました。以前は“お決まりの〇〇”でしたが、テイクアウトできるお店が増えたこともあり、迷ったり、決め兼ねたり、時には失敗？したり。一発で決まるときもあれば、選ぶこと自体が楽しいときもあり、思いが定まらないときもあり、気が乗らない日もあって、そのときの気分が左右されています。でも、最終的には「やっぱりこれだな！」と、最初に戻ることが多いかな～。

あんですで、日々子ども達の育ちを見ていく中で、頼もしく、力強く感じる場面は数え切れません。その中のひとつに、『選ぶ力』の育ちが挙げられます。『選ぶ力』がついてくると、子ども自身にも余裕が生まれ、視野も広くなり、器が大きくなっていきます。

まだ小さいうちは、“選ぶ”というより、世の中にどんなことがあって、どんなモノがあって、どう参加してトライして楽しむのか、楽しめるメニューを広げていくことから、スタートします。どの子も、まずは拒否（「嫌や」「怖い」）から入りますからね。楽しく成就する経験を重ね広げていくことが大切です。そのうち、身近な大人や友達と同じことをしたり、同じモノを使ったりすることが楽しくなってきます。「おんなじ、おんなじ」ってヤツですね。楽しいことが増えてくると、楽しくないことも意識するようになってきます。そして“好き嫌い”“YES=NO”がはっきりしてきます。「どっちがいい？」と二択で尋ねると、好きなモノのほうを選ぶようになります。三択で選べるようになると、随分と余裕が出てきます。「2番目でもいいや」と思えるようになり始めるからです。無理のない妥協は、人と一緒に上手く過ごす上で大切な力です。でも、「本当はこれが良かったんだよね」と、周りの者は受け止め、のちのち別の場面で叶えてあげなきゃです。我慢のし過ぎは、モヤモヤが溜まっていきますからね。

大きくなるにつれて、子ども的一天は、よりドラマチックになっていきます。何か選択を迫られたときの気持ちも複雑になってきます。今日はどんな一日だったのか、余裕のある時間だったのか。満たされた時間が多かったのか、叶うことより妥協が多かったのか。疲れていない？絶好調？等々、「（僕だって私だって）いろいろあるんだよ」と、つぶやきたくなることもあるでしょう。「今日はこだわるよ！」「今日はどうぞ、先に決めていいよ」「考えるのが面倒くさい」と、態度はまちまち。そこから、周りの者は心身のコンディションを察することができます。「たいへんだったんだね」と、いちばん好きなモノを出して気分転換を図ることもできますし、「あとでもいいの？ えらいね、ありがとう」と、気持ちよく褒められる場面も作れます。

『選ぶ力』の育ちは、考える力が向上した、ということだけを意味するのではなく、自分の意思を明確に伝える力や、人と上手に過ごしていく“思いやり”や“やさしさ”の気持ちも育てていくとても奥の深いものだと感じています。日々何気なくしている関わりの中に、そんな意味が隠されていると思うと、少し面倒でも、場面を作っていくようになりますね。大人になって、何かを自分の意思で決めていく場面になったときに、必ず生きてくる力ですから。



「あそこのテイクアウトいいよ」の情報交換も、生活の味付けになりそうですね。（R3. 7）K